

# 商工とやま

The Toyama Chamber of Commerce & Industry

No.751

6・7

2024

特集 パートナーシップを築いて事業を成功に導く

今年50周年を迎える富山商工会議所青年部



祝 富山商工会議所青年部 創立50周年

# パートナーシップを築いて事業を成功に導く

## 今年50周年を迎える富山商工会議所青年部

富山商工会議所青年部（富山YEG）は今年で50周年を迎えます。半世紀の節目を団結の契機とし、「Making History～情熱のバトンで、主体性と調和が織りなす未来へ！新時代の先駆者は俺たちだ！」というスローガンのもと、より充実した活動を目指します。富山YEGが地域商工業の発展に貢献し、新たなビジネスモデルを生み出すためには、どのような視点や考え方が必要なのでしょうか。今年度の富山YEG会長の森実智洋さん（トヤマ商事株式会社代表取締役）と、袋布昌幹さん（富山高等専門学校物質化学工学科教授、校長補佐）に伺いました。

### ■富山高専と連携

—このたび、森実さんと袋布さんは話を聞いたのは、新たなビジネスモデルを創るビジネスパートナーだからです。どのような取り組みなのでしょうか。

森実さん 私たちは2023年度の富山YEG会長を務めた中川武秀さ



▲森実智洋さん

その解決につながる商品や仕組みを考えるために複数の企業や研究機関との連携が必要でした。トヤマ商事と八尾興業、富山高専が連携し、「エシカルグリーン」というテーマを打ち出しました。

袋布さん 「エシカル(ETHICAL)」とは、富山高専の学生のアイデアから生まれた言葉です。そもそもエシカルとは英語で「倫理的な」という意味を持つ形容詞です。環境への配慮を促す言葉としては「エコ」

年3月、日本商工会議所青年部（日本YEG）の第18回ビジネスプランコンテストでグランプリを受賞しています。

土壤改良材を何に用いるかというと、イワダレソウの改良種「クラピア」の栽培です。クラピアは種子ができるない不穏性の特徴があり、早く成長して美しく密な緑のカーペットになります。トヤマ商事では、この緑化に適したクラピアを委託販売しており、生育環境を最適化するために廃石膏ボードを活用しました。

環境負荷がかかる社会課題があり、



ETHICAL GREEN

- 地域一人一人の貢献による
- 地域の未来のための
- 地域の緑化

▲エシカルグリーン 社会に暮らす全員で環境問題に取り組み、緑化を通じて環境保全と経済成長を実現する取り組み。

が知られていますが、単に「環境に優しい」ではなく、社会全体の利益と公正に考慮した行動を選ぶよう意識をアップデートして緑化を目指すために、「エシカルグリーン」という言葉を用い、これを商標登録しました。

### ■日本YEGへ1年間出向

—そもそも森実さんは、袋布さん、中川さんと、どのような縁でつながったのですか。これまでの歩みも含めて紹介ください。

森実さん 私は2001年に富山高専電気工学科を卒業しました。袋布先生の学科ではありませんでしたが、寮生だったこともあって接点がありました。その後、富山大学工学部電子部品メーカーのファインネクス（舟橋村）に就職し、改善業務を5年間、担当しました。2007年に27歳でトヤマ商事（富山市）へ入社し、現在に至ります。当社は県内（新潟県及び岐阜県の一部を含む）の精密機器メーカー等への加工油剤、潤滑油剤、その他副資材の販売とアフターサービスを行っています。妻の実家の事業に関わる形で入りましたので、経営者になるための経験を積む必要があり、取引先の社長の勧めで2011年に富山YEGへ入りま

した。当時、「視野を広げたい。技術を世に出す立場として活躍したい」という思いがありました。

2018年、日本YEGが主催するビジネスプランコンテストの運営委員会へ1年間、出向しました。このコンテストは、YEGのメンバーに2代目、3代目が多くなり、事業全体を体系的に見る視点を培うことなどを目的に創設されました。出向

していいた期間はコンテストを支え、全国を巡って研修する立場にもなりました。この時期に、コンテストを盛り上げようと富山YEGメンバーから10名がエントリーリーしてくださり、全国からエントリーされた全プランを20名までに絞る1次審査において、富山YEGから2名が通過という快挙を成し遂げてくれました。その1人が中川さんでした。テーマは、資源循環を目指して廃棄する石膏ボードをリサイクルする仕組みでした。産学連携でこれを支えたのが袋布先生であり、3人がつながったのです。



▲中川秀さん(左)/右は、三村明夫日本商工会議所前会頭・日本YEGビジネスプランコンテスト授賞式にて

袋布さん 通常ならば接点の得にくい3人による座組で、「エシカルグリーン」という概念を考えついたという経験こそが大事だと思います。私たちが土壤改良に石膏を使うことで雑草の成長を止める効果を狙つて試行錯誤していたところ、「クラブ」の販売元から「詳しく概要を聞かせてほしい」と依頼を受けました。私たちのチームから生まれたアイデアや製品に、関心を寄せてくれたのです。5月には東京ビッグサイトで開催されたアジア最大の環境展「2024年NEW環境展」で「エシカルグリーン」を紹介し、来場者の関心を集めています。

■産学をつなげる役割  
——「エシカルグリーン」の成功を踏まえ、新たなビジネスモデルを創るために、どんなことが求められると考えますか。

袋布さん 産学連携は、「これからどうするか」を考えるべき時期に来ていました。そのために一つは「社会善」すなわち社会貢献を目指すべきであり、もう一つは新しい枠組みでやることだと思います。業界団体内で連携していくも、既得権益の奪い合いになつて新しいものはできません。今回、「エシカルグリーン」において石膏と植物という異色の組み合せがあつたからこそ、広がりが

生みました。業界内の連携にこだわると、既成の枠を越えられません。そういう中でYEGという組織は、地域という枠はあるけれども、業界の枠を超えてつながっていると思います。いろんな新しい組み合わせで「次に何をやるか」を考えやすいです。

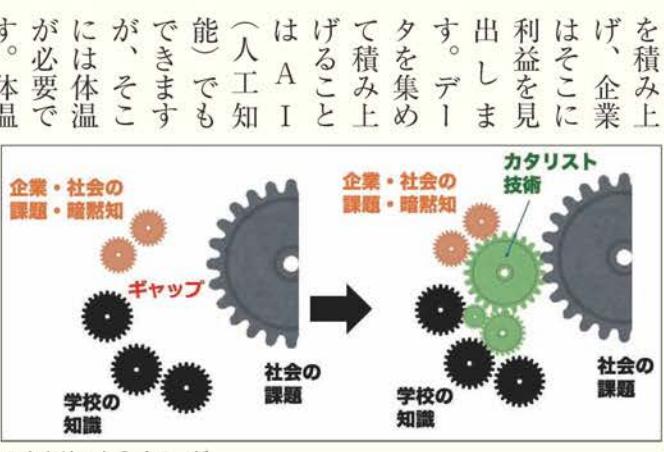
そもそも産業界の「ニーズ」とアカデミズムの中の「シーズ」は目標しているものが違います。企業は利益を追求し、研究者は探究心によって動いています。その間を埋めるものがないと噛み合わないのです。そこで、企業と研究者の間の距離を埋めていくのが「カタリスト技術」だと考えます。「カタリスト」は触媒という意味です。

「カタリストの役割が何か」と聞かれても、私も分かりません。言えないし、分からぬし、何がそれにな該当するのか……。前例はありません。それを見つけたり、創つたりすることがこれが求められるのです。研究者はいろいろなデータから理論



▲袋布昌幹さん

森実さん トヤマ商事はそもそも、ものづくりの会社に薬品や油を卸し、メンテナンスもする会社です。私が富山YEGで学んだおかげで、これまでとは異なる得意先とつながることができます。それができ、多角経営に取り組むことができるようになりました。何かとつながつたり、何かと何かをつないだりすることは、富山YEGの活動の根幹となる考え方もあります。袋



▲カタリストのイメージ

## 富山YEGの活動



▲富山おらっしゃ祭り



▲おらっしゃリレーマラソン



▲全国大会 越中富山大会



▲富山まつり 星空バザール



▲ビジネス活性化委員会 講師委員会



▲YEGフェア2023

の役割を担うことができるでしょう。富山県内において富山YEGと富山高専が連携して生み出した成果をアピールすることで、YEGと全国の高等専門学校がつながるという考え方があることも発信できるのではないか。組織と組織の連携ができれば、都道府県を越えた連携も生まれるかもしれません。

### 創立時は会員92人

——50周年の節目を迎えた富山YEGについて教えてください。

森実さん 富山YEGは1975年に創立されました。初代会長は橋本敏宏さん（現在はサクラパックス株式会社の相談役）で、創立時の会員

数は92人でした。「地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い、次代への先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもつて、豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」という機運が高まつたことが創立の経緯です。当時、日本中の商工会議所で青年部が創立され、その中でも富山は早い時期に誕生しました。

——森実さんにとって富山YEGの活動を通じてどんな学びがありましたか。

森実さん 正直、入った当初は「何の役にも立てていない」と思いました。しかし、2011年に全国大会、2014年に40周年、2016年に

ブロック大会と事業での経験を重ね、委員会での仕事や副会長を務めるうちに鍛えられていったと思います。違う価値観の人と接点を見出し、「ちょっと苦手かなあ」と思う人ともうまくやつていくスキルを身につけていきました。互いを認め合い、パートナーシップを築いて事業を成功に導くことを長年にわたってできるようになりました。こういった経験は、YEGの活動だけではなく、社会全体に必要だと思います。

——2024年度会長に着任し、どのような思いを持っていますか。

森実さん 「Making YEG History」というスローガンのもと、以下の5つの志を掲げ活動しています。①地

域の政策に関心を持つ経済人を増やすとともに、経済のプレイヤーとして広く意見集約を行い、まちづくりを担う行政の方々の考えに耳を傾け、政策提言を行います。②自然災害の頻発などのリスクに備え、事業継続を阻害するリスクの緩和につながるよう防災体制を構築し、持続可能な社会を目指します。③パートナー・シップを実現するビジネス連携により、会員企業の経済的成長を促進し、地域経済の持続的活性化に寄与します。④データ活用によるYEG活動の見える化を目指し、会員のデータリテラシー向上に寄与します。⑤組織の歴史と将来を結びつける調和のGのありたい姿に向けて歩を進めるためのバトンとします。

50周年という特別な年を契機とし、心からの感謝と情熱を胸に、絶え間ない主体性を發揮し力を合わせて更なる成長と努力を築いていきます。新たな時代をより輝かせるため、富山YEG現役会員が50周年を迎えた誇り高い組織であることを心に刻み、全員が一丸となり託された情熱のバトンを次世代へ引き継ぐ挑戦を続けていたいと思います。

### ■防災井戸を掘りPP

—50周年を記念してどのような事業を予定していますか。

森実さん 11月23日に富山市の芸術文化ホールで式典・大懇親会を開けます。また、節目の事業として富山市中心部に1カ所、防災用の井戸を掘ります。富山市内には数十カ所に井戸があるので、それらと合わせて防災井戸について知つてもらい、防災リテラシーを高める機会とします。事業内容を決めたのは昨年でしたが、2024年元日に能登半島地震が起り、ますます防災井戸の必要性が認識されました。地域経済や、それを担う皆さんと一緒に、何ができるかを今後も考えていきたいと思います。

—50周年を迎えた富山YEGの一層の発展と、会員の皆さんの活躍を願っています。

### 富山商工会議所青年部(富山YEG)

富山商工会議所青年部は、会員相互の親睦と連携のもとに、青年経済人としての社会的責任の自覚にもとづき、社会的連携感を養い、その経営能力の向上と新時代に即応した体質改善による企業の近代化を図り、地域商工業の振興発展に寄与することを目的として、昭和50年に創立されました。

「YEG」とは、商工会議所青年部の英語名(Young Entrepreneurs Group)の頭文字であり、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野）を持った経営者（Youth, Energy, Generalist）を表しています。



富山商工会議所青年部  
Young Entrepreneurs Group of TOYAMA

富山市総曲輪2-1-3  
富山商工会議所ビル3階  
TEL 076-423-1171

